

# いりすま Smile

「悔いのない生き方」

を探して

Vol.81

**毛利 治郎さん**  
(周東町在住)

シンガーソングライター。長年勤めた会社を51歳で辞め、音楽一本の暮らしを始める。各地でのライブ活動のほか、講演会、東北の被災地を訪れての音楽を通じたボランティアなど、精力的に活動を続ける。



▼被災地でのボランティアコンサートの様子



ギターの優しい音色に乗せ、家族や自然、故郷をテーマとした歌のライブ活動を行うのは、周東町在住のシンガーソングライター・毛利治郎さんです。高校2年生の時に、反戦歌などメッセージ性のあるフォークソングの存在を知り、自分の思いを歌で表現できることに興味を持ったという毛利さん。

曲を作つて友達と自主コンサートをするなどの音楽活動を大学生まで続けていました。しかし周りの友人が皆就職していく中、それまで思い描いていた音楽を仕事にする生活に不安を感じ、地元の会社へ就職。それ以来、音楽をやめてしましました。

サラリーマンとして普通に生活していました40歳の時、父親が病気で亡くなりますが、「本当に父は幸せだったのだろうか。自分は今までいいのか」と考えるようになりました。父が棺桶の中から「悔いのない生き方をしろよ」と言つてくれた気がしたといいます。

一度しかない人生、いつ死ぬかは誰にも分からぬ。もう一度音楽をやろう。そして悔いのない生き方を探そう」と決心し、曲作りを再開。51歳の時に会社を辞

め、音楽活動に専念することを決意します。地道な努力を重ね、3年目によくやく仕事が貰えるようになりました。音楽は後悔のない人生を探す手段の一つという毛利さん。現在は市内や近隣でのライブ活動のほか、定期的にチャリティーコンサートも行っています。東日本大震災以降は、仮設住宅を回り被災者の皆さんと歌を歌つて楽しむボランティアを続け、昨年9月で8回目となりました。音楽以外でもいろいろな事に挑戦し、還暦を迎えた昨年には、自分の体力・気力の限界を知るために13日間で新潟県～静岡県の約300kmを徒歩で縦断しました。

「音楽活動を始めて、お客様や支えてくれる周りの人々に自分の目標である後悔のない人生のヒントを、一つ一つ頂いている気持ちです。これからも感謝の気持ちを忘れず、何事にも積極的にチャレンジしていくこうと思います」



▲周東町の田んぼで行われた「田んぼコンサート」



▲新潟県～静岡県を渡る糸魚川静岡構造線約300kmを徒歩で縦断に挑戦